

《担当者名》教授 / 飯塚 健治

准教授 / 町田 拓自

講師 / 鹿内 浩樹

## 【概要】

様々な疾患の病態生理学的背景や臨床経過を理解することは、薬物治療を実践するに当たって極めて重要である。薬物療法学では、心血管疾患と循環器関連治療薬、体液・電解質や利尿薬などの循環系に関わりの深い疾患について、その病因・病態を理解し、関連する薬物の薬理作用や薬物治療の理論的背景と合理的な医薬品の使用方法を学ぶ。

## 【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な循環器関連疾患・病態について列挙し、その病因・病態を理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	循環系総論 事前に資料を配付する。	心・脈管系の基本的な構造や機能について概説できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- -1~3, C7-(2)- -1 E2-(3)- -1~6	飯塚 健治
2	循環器関連薬理学 事前に資料を配付する。	循環器に関連する様々な自律神経系受容体や作動薬、阻害薬について、薬理学観点から総括できる。 アドレナリン作動薬の基礎構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1~6, -1	町田 拓自
3	高血圧症 低血圧症 不整脈 事前に資料を配付する。	高血圧、低血圧の発生機序、病態並びに治療方針を説明できる。 不整脈の発生機序や病態並びに治療方針について簡単に説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1, 4, 5	飯塚 健治
4	抗不整脈薬 事前に資料を配付する。	抗不整脈薬の薬理作用・副作用を説明できる。 抗不整脈薬の適応を説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1	飯塚 健治
5	虚血性心疾患 虚血性心疾患治療薬 事前に資料を配付する。	虚血性心疾患の治療に用いられる薬物の作用を説明できる。 虚血性心疾患の薬物治療について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -3	飯塚 健治
6	心肥大、心拡大、心不全 心筋症、弁膜症 事前に資料を配付する。	心肥大、心拡大、心筋症、弁膜症、及び心不全の病態、発生機序並びにその治療方針について簡単に説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -2	飯塚 健治
7	利尿薬 事前に資料を配付する。	利尿薬の種類を説明できる。 利尿薬の作用機序・副作用を説明できる。 利尿薬の作用・適応について説明できる。	鹿内 浩樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1	
8	局所循環障害 事前に資料を配付する。	多様な血管疾患や、それに伴って発生する循環障害について概説できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -5	飯塚 健治
9	体液・輸液療法 事前に資料を配付する。	体液の構成、役割、異常について説明できる。 体液異常の治療について説明できる。 輸液の作用・適応について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -2	鹿内 浩樹
10	心不全治療薬 その他の循環器疾患 事前に資料を配付する。	心不全の治療に用いられる薬物の作用を説明できる。 心不全の薬物治療について説明できる。 その他の循環器疾患の作用について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -2, 5	飯塚 健治

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

期末定期試験（100%）で合否の判定を行う。

（正答率の低い問題については、解答と解説を遠隔授業ポータルサイト（Google drive）で公表する。）

#### 【教科書】

- 1 病が見える vol.2 循環器 MEDIC MEDIA
- 2 病が見える vol.8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA
- 3 薬が見える vol.1 腎・泌尿器系の疾患と薬、循環器系の疾患と薬、神経系の疾患と薬 MEDIC MEDIA

#### 【参考書】

薬物治療学 南山堂

詳解 薬理学 廣川書店

クイックマスター病理学 サイオ出版

#### 【学修の準備】

本講義は、2年生で開講された病態生理総論の内容を踏まえて開講される。また、臓器別に解説される「薬物療法学 ～」の一部として開講されており、疾患全体を理解する上で他の領域と関連を持つ内容を多く含んでおり、学修範囲が多岐に及ぶため、疑問点を含めて講義内容のしっかりした理解に努めること。

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと（50分）。

復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに（50分）、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと（20分）。

#### 【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

(1) 人体の成り立ち

【 循環器系】1,2

(2) 生体機能の調節

【 血圧の調節機構】1

E2 薬理・病態・薬物治療

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

【 循環器系疾患の薬、病態、治療】1～5

【 泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】1

【 化学構造と薬効】1

#### 【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

**【実務経験】**

飯塚 健治(医師)、町田 拓自(薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での医師、薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床に即した薬物療法学の講義を行う。